

(報道資料)

平成26年2月13日

N H K

「第65回日本放送協会放送文化賞」の贈呈

「第65回（平成25年度）日本放送協会放送文化賞」は、次の方々に贈呈することに決定しました。〈五十音順・敬称略〉

東北大学災害科学国際研究所津波工学 教授 いま むら ふみ ひこ
今 村 文 彦

国立高等専門学校機構 理事、仙台高等専門学校 校長 うち だ たつ お
内 田 龍 男

公益財団法人大原美術館 理事長 おお はら けん いち ろう
大 原 謙 一 郎

歌人、日本文藝家協会 理事長 しの ひろし
篠 弘

作曲家 ひら お まさ あき
平 尾 昌 晃

俳優 みや もと のぶ こ
宮 本 信 子

この賞は、昭和24年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しており、これまでの受賞者は今回の6人をあわせると422人となります。

受賞者の選考は、NHKの前副会長 小野直路委員長に、池端俊策氏（脚本家）、海老澤敏氏（尚美学園大学大学院特別専任教授）、大石芳野氏（フォトジャーナリスト）、末松安晴氏（高柳記念財団理事長）、高階秀爾氏（大原美術館館長）、田部井淳子氏（登山家）と、NHKの理事6名の計13名を委員とする選考委員会で行われ、これを受けてNHK前会長の松本正之が受賞者を決定しました。

贈呈式は、3月14日（金）の「第89回放送記念日記念式典」（午前10時からNHKホール）で実施します。また、受賞者には佐藤忠良氏製作のブロンズ像「ふたば」と副賞100万円を贈呈します。下記のホームページでも受賞者に関する情報を公開（2月13日午後5時から）しています。

<http://www.nhk.or.jp/museum/bunkasho/index.html>

(資料)



いまむら ふみひこ
今村 文彦

東北大学災害科学国際研究所

津波工学教授

昭和36年 9月24日生 (52歳)

※年齢は平成26年 3月14日時点

出身 山梨県

〔業 績〕

津波の被害や対策について1983年(昭和58年)日本海中部地震津波の調査を行って以来、工学的な立場から研究を続け、津波工学という分野で世界的な権威。1993年(平成5年)奥尻島津波災害や2005年(平成17年)スマトラ大津波をはじめとする近年の主要な津波災害では常にNHKや世界のメディアのニュース、番組に出演され、津波の発生メカニズム、防災対策などを提起し続けてきました。平安時代の貞観津波の研究では2010年(平成22年)に危険性を指摘。また、2011年(平成23年)3月11日の東日本大震災が引き起こした巨大津波では現地調査団をまとめ正確なデータによる被害の実態を報道に提供するなど緊急報道にも広く貢献しました。NHKがインターネットで公開している東日本大震災アーカイブスにおいても、科学的な視点での監修や番組を用いた未来の防災ワークショップなど、あたらしいメディアの連携を試みています。

〔主な出演番組・資料提供など関係した番組〕

NHKスペシャル「大津波が襲った・奥尻島からの報告」徹底取材・その時何が起こったのか(1993/7/16 総合)、緊急報告 スマトラ沖地震 ー巨大津波はなぜ起きたのかー(2004/12/29 総合)、NHKスペシャル「情報が命を救う」(2)(2005/3/22 総合)、サイエンスZERO「大津波の正体に迫れ」(2005/6/18 Eテレ)、NHKスペシャル「メガクエイク Mega quake」第1回 巨大地震(2010/1/10 総合)、第4回 死の波が都市を襲う(2010/3/14 総合)、NHKスペシャル 東日本大震災「被災地は訴える～復興への青写真～」(2011/4/23 総合)、NHKスペシャル MEGAQUAKE II 巨大地震 第2回「津波はどこまで巨大化するのか」(2012/4/8 総合)

〔略 歴〕

1989年 東北大学大学院工学研究科博士後期修了 土木工学専攻
1992年 東北大学工学部災害制御研究センター助教授
2000年 東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授
2012年 東北大学 災害科学国際研究所 教授(現)

〔主な受賞〕

2000年 The 1999 Coastal Engineering Journal Award
2006年 土木学会海岸工学論文賞
2010年 第1回気象文化大賞 金賞受賞
2010年 平成21年度土木学会論文賞
2010年 日本地質学会論文賞
2013年 防災功労者防災担当大臣表彰を受賞

(資料)



うちだ たつお
内田 龍男

国立高等専門学校機構 理事
国立仙台高等専門学校 校長
昭和22年11月21日生(66歳)
※年齢は平成26年3月14日時点
出身 静岡県

〔業 績〕

液晶材料の基礎研究からデバイス開発まで液晶表示分野の研究を長年にわたり先導され、学問領域として構築するなどその基盤を確立しました。大画面・高画質なハイビジョン液晶ディスプレイの実用化に向けて、カラー化、広視野角化などの高性能化技術を開拓するなど、放送技術の発展に指導的役割を果たされました。

〔主な出演番組・資料提供など関係した番組〕

「NHKニュース」“東北大学の研究グループ 高画質の液晶画面を開発”(1997/8/20 総合)、
「おはよう関西」“低電力・高品位の液晶画面 開発”(2003/12/16 総合)、「NHKニュース
てれまさむね」“新キャンパスで町づくりを”(2008/10/27 総合)、「ニュースWAVE宮崎」
“ディスプレイの最新技術を紹介”(2009/12/9 総合)、「ニュース・気象情報」“東松島の復興
仙台高専が技術指導”2012/5/17 総合)

〔略 歴〕

1970年 東北大学 工学部電子工学科卒
1975年 東北大学 大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了
1975年 東北大学 工学部電子工学科助手、1982年助教授、1989年教授
2006年 東北大学 工学研究科長・工学部長
2009年～ 宮城県産業振興審議会 会長(現)
2010年～ 国立仙台高等専門学校 校長(現)
2013年～ 国立高等専門学校機構 理事(現)
映像情報メディア学会 副会長(2004年5月～2006年5月)、会長(2011年5月～2012年5月)
応用物理学会 理事(2001年4月～2003年3月)
日本液晶学会 副会長(2007年1月～2007年12月)、会長(2008年1月～2008年12月)

〔主な受賞〕

1986年3月 第32回大河内記念技術賞、4月 第28回科学技術庁長官賞・科学技術功労者賞
1993年4月 新技術開発財団・市村賞(貢献賞)
1994年5月 Society for Information Display Fellow
2001年7月 科学技術振興事業団・井上春成賞、9月 日本液晶学会・業績賞
2004年5月 Society for Information Display・Jan Rajchman Prize
2005年4月 文部科学大臣表彰・科学技術賞・理解増進部門
2005年6月 内閣府産学官連携功労者表彰・文部科学大臣賞
2009年5月 電子情報通信学会・業績賞
2013年5月 映像情報メディア学会丹羽高柳賞・功績賞

(資料)



おおはら けんいちろう
大原 謙一郎

公益財団法人大原美術館 理事長
昭和15年10月18日生 (73歳)
※年齢は平成26年3月14日時点
出身 岡山県

〔業 績〕

大原氏が理事長を務める大原美術館は日本初の西洋近代美術館で、エル・グレコの「受胎告知」をはじめモネやゴッティンなど世界の巨匠の作品百余点を所蔵、日本で西洋近代美術を語る上で欠かせません。大原氏は、「日曜美術館」など数々の番組に快く協力して視聴者が第一級の芸術にテレビを通して触れる機会をつくり、放送文化の向上に多大に貢献しました。

〔主な出演番組・資料提供など関係した番組〕

日曜美術館 夢の富士山 傑作10選～巨匠たちの知られざる物語～ (2013/7/28 Eテレ)、新日本風土記「倉敷」(2013/7/5 BSプレミアム)、視点・論点 美術館の役割と文化 (2013/4/18 総合)、日曜美術館 沈黙の風景～松本竣介・ひとりぼっちの闘い～ (2012/8/5 Eテレ)、極上美の饗宴 藤田嗣治・乳白色の裸婦の秘密 (2012/5/9 BSプレミアム)、新日本風土記スペシャル 手の国につぼん 名品名匠への旅 (2012/1/6 BSプレミアム)、日曜美術館アクションから生まれた革命～ジャクソン・ポロック～ (2011/12/11 Eテレ)、猫のしっぽ カエルの手 京都大原 ベニシアの手づくり暮らし「思い出の地へ～岡山県～」(2011/11/11 BSプレミアム)

〔略 歴〕

1963年 東京大学経済学部 卒業
1964年 エール大学 大学院 経済学部 修士課程修了
1968年 同大学院 同学部 博士課程修了
倉敷レイヨン株式会社 (現 株式会社クラレ) 入社
1982年～1989年 同社副社長
1990年 株式会社中国銀行入行 (顧問⇒代表取締役副頭取⇒取締役)
1999年 同行取締役退任
(1991年就任～現在) 公益財団法人 大原美術館理事長 (現)
※2011年 財団法人から公益財団法人へ移行

〔主な受賞〕

2002年 第60回山陽新聞賞・文化功労
2004年 ソロプチミスト日本財団 千嘉代子賞
2006年 第28回サントリー地域文化賞
2009年 平成21年度 地方行政功労者文部科学大臣表彰
2010年 第43回岡山県三木記念賞 文化部門

(資料)



しの ひろし
篠 弘

歌人、日本文藝家協会 理事長
昭和 8年 3月 23日生 (80歳)
※年齢は平成 26年 3月 14日時点
出身 東京

〔業 績〕

1978年(昭和53年)10月から始まった、毎週土曜日の午前11時台にラジオ第1放送で放送中の「文芸選評・短歌」の選者を35年の長きにわたってつとめています。文学的で高尚なものと思われていた短歌を、より日常的なもの、普段の生活や自然などを詠む一般的なものとして分かりやすく解説し、短歌の普及につとめています。このほか、NHKとNHK学園主催の全国短歌大会の選者をつとめるほか、テレビ・ラジオへの出演も多数されています。また、正月に宮中でおこなわれる「歌会始」の選者をつとめるとともに、2010年(平成22年)からは短詩形文芸界として初、詩歌人として初めて日本文藝家協会の理事長に就任し、放送に対する理解と厚い貢献をされています。

〔主な出演番組・資料提供など関係した番組〕

- ・文芸選評・短歌(1979年4月から、毎月第3土曜日放送 ラジオ第1放送)
- ・新春おめでた文芸(毎年1月3日放送 ラジオ第1放送)
- ・NHK趣味百科・短歌(1992年4月から1年間 Eテレ)
- ・NHK全国短歌大会(毎年1月放送 Eテレ)
- ・歌会始(毎年1月放送 総合)

〔略 歴〕

早稲田大学第一文学部・国文科卒
在学中に短歌会「まひる野」に入会し現在主宰
小学館に入社し、百科事典「ジャポニカ」の編集長など歴任。取締役。
現代歌人協会理事長(2001年～2008年)
日本現代詩歌文学館館長(現)
宮中歌会始選者(現)
日本文藝家協会 理事長(現)

〔主な受賞〕

- 1982年(昭和57年) 第5回 現代短歌大賞
- 1999年(平成11年) 紫綬褒章
- 2000年(平成12年) 詩歌文学館賞
- 2005年(平成17年) 旭日小綬章
- 2012年(平成24年) 齋藤茂吉短歌文学賞 など受賞多数

(資料)



ひらお まさあき
平尾 昌晃

作曲家

昭和12年12月24日生 (76歳)

※年齢は平成26年3月14日時点

出身 東京

〔業 績〕

歌手、作曲家として数々の大ヒット曲を生みだし、日本の歌謡文化に大きな貢献をしてこられました。若者向け人気番組「レッツゴー・ヤング」では司会を務め、新人歌手の発掘・育成にも尽力されました。また2006年からは、藤山一郎氏、宮川泰氏に続き、NHK紅白歌合戦で「蛍の光」の指揮を担当しています。

〔主な出演番組・資料提供など関係した番組〕

【歌手として】『NHK歌謡コンサート』(総合)、『NHKのど自慢』(総合)、『BS日本のうた』(BSプレミアム)、『思い出のメロディー』他 NHKの歌謡番組に多数出演(総合他)、
【作曲家として】『レッツゴーヤング』(1979-1980 総合 司会を担当)、『第57回NHK紅白歌合戦』(2006/12/31 以降 総合他) ※エンディングの「蛍の光」指揮、『NHK全国学校音楽コンクール』(1975 Eテレ) 第42回中学の部課題曲※「ともだちがいる」作曲

〔略 歴〕

1953年(昭和28年) 日本ジャズ学校入学
1958年(昭和33年) レコード・デビュー
1967年(昭和42年) 日本レコード大賞・作曲賞(「霧の摩周湖」・「渚のセニョリーナ」)
1974年(昭和49年) 平尾昌晃ミュージックスクール開校、多くの新人歌手を輩出
1975年(昭和50年) 平尾昌晃チャリティゴルフを開催(2014年、第37回大会開催)
1994年(平成6年) 日本作曲家協会・理事に就任(その後、常任理事に就任)
2002年(平成14年) NPO法人ラブ&ハーモニー基金設立
2011年(平成23年) 上記法人が国税庁より認定NPO法人として認可を受ける

〔主な受賞〕

2001年(平成13年)6月 モンブラン国際文化賞受賞
2003年(平成15年)5月 紫綬褒章 受賞

〔主な著作・作品〕

歌唱:「星は何んでも知っている」「ミヨちゃん」「カナダからの手紙」
作曲:「霧の摩周湖」「よこはま・たそがれ」「わたしの城下町」「瀬戸の花嫁」「夜空」
「ふるさと」「二人でお酒を」「カリフォルニア・コネクション」「うそ」「草原の輝き」
「アメリカ橋」「グッド・バイ・マイ・ラブ」
その他、番組テーマ、校歌、社歌など多数作曲

(資料)



みやもと のぶこ
宮本 信子 (本名 池内 信子)

俳優

昭和20年 3月27日生 (68歳)

※年齢は平成26年 3月14日時点

出身 北海道

〔業 績〕

大河ドラマ「毛利元就」、連続テレビ小説「まんてん」「どんど晴れ」など、NHKのドラマに数多く出演されるとともに、長年にわたって映画や舞台の第一線で活躍されました。平成25年度前期連続テレビ小説「あまちゃん」では、ヒロインの祖母役で東北に生きる女性の力強さと優しさを見事に演じ、多くの視聴者を魅了しました。

〔主な出演番組〕

「名古屋駅前」(1964 総合)、「あしたの家族 わが道」(1965 総合)、「死にたがる子」(1979/2/17 総合)、「連続テレビ小説 本日も晴天なり」(1981/10/5 総合)、「ドラマ新銀河 ゆっくりおダイエット」(1994/6/13 総合)、「大河ドラマ 毛利元就」(1997/1/5 総合)、「さよなら5つのカプチーノ」(1998/10/31 総合)、「連続テレビ小説 まんてん」(2002/9/30 総合)、「農家のヨメになりたい」(2004/5/24 総合)、「連続テレビ小説 どんど晴れ」(2007/4/2 総合)、「どんど晴れ スペシャル」(2007/12/28 総合)、「大河ドラマ 天地人 ナレーション」(2009/1/4 総合)、「続・遠野物語」(2010/12/21 総合)、「こだわり男とマルサの女」(2012/2/23 BSプレミアム)、「連続テレビ小説 あまちゃん」(2013/4/1 総合)

〔略 歴〕

1963年愛知淑徳高校卒業。文学座附属演劇研究所を経て、1964年劇団青芸在籍時に「三日月の影」で初舞台。1972年よりフリーに。1984年映画「お葬式」以降、伊丹十三監督の全ての作品に出演。以降、舞台、テレビにも活躍の場を広げる。

〔主な受賞〕

1985年 「お葬式」で、日本アカデミー賞優秀主演女優賞
1988年 「マルサの女」で、シカゴ国際映画祭最優秀主演女優賞、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞、キネマ旬報報道主演女優賞など
2008年 「眉山」で、日本アカデミー賞優秀助演女優賞
2011年 「阪急電車～片道15分の奇跡」で、報知映画賞助演女優賞
2012年 同作品で、日本アカデミー賞優秀助演女優賞、日本批評家大賞助演女優賞